

令和6年度 連携型中高一貫教育 実施報告

＜飛騨地区＞ 神岡中学校・山之村中学校・飛騨神岡高等学校

1 連携型中高一貫教育の目標とその達成に向けた具体的な取組

(1) 連携型中高一貫教育の目標

「ともに育てよう元気な神岡の子」をめざし、地域の子どもたちを地域ぐるみで育て、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育成し、生徒の自己肯定感を高める。そして、地域と連携・協働して地域に愛着と誇りをもつ子を育て、地域の活性化につなげる。

①夢・目標に向かって挑戦し、自分から学ぼうとする子

②地域に愛着と誇りをもち、地域に貢献できる子を育てる。

(2) 連携型中高一貫教育の令和6年度の重点

- ・中高教員や生徒同士の授業交流活動の充実による自分から学ぼうとする力の育成
- ・地域の人や産業から学ぶ体験学習の充実による目標に向かって挑戦する心の醸成と、生徒・保護者・地域との交流活動の推進による地域に貢献する態度の育成

2 目標達成に向けた具体的な取組における成果と課題

目標	取組	成果と課題
夢・目標に向かって挑戦し、自分から学ぼうとする力の育成	授業交流 先輩との交流	○中学校と高校の教科担任による事前打ち合わせにより、T1・T2の出番や役割を共通理解することができ、生徒の実態に応じた指導につながった。また、中学校の教科書で紹介されている発展的な学習について高校教員がT1として授業をすることで、中学生が中学校と高校の学習の関連を知り、学習内容の理解を深める機会とすることができた。 ○「Step by Step 面談」では、単に受検のための面談ではなく、自ら学ぼうとする力を育成するという視点で事前・事後指導を大切に進めることができた。系統的な学習指導や専門的な助言を得られる場、高校についての理解や進路の検討ができる機会として有意義だった。 ○「先輩と語る会」では、開催回数や派遣生徒の役割を厳選することで準備を充実させ、4年ぶりに対面で実施することができた。特に、実施時期を中学3年生の夏季休業前に実施する三者懇談前にしたことで、語る会の内容と進路選択をつなげるように実施できた。 ▲「Step by Step 面談」の意義を次年度も引き継ぎ、「高校授業体験」を含めた実施時期や方法について、神岡中と山之村中との連携を図って進めていく必要がある。 ▲飛騨市学園構想にもとづき、ぜひ各校の探究活動についての交流をしていきたい。
	中高教員交流	○夏期の高校授業公開と小中高の教員交流を継続できたことにより、小中学校の教員が高校の実態を知り、教員間の意見交流をするよい機会となった。 ○部会ごとに学習指導要領の発達段階ごとの重点や各校の工夫に加え、児童生徒の評価を含めた意見交流をしたことで、夏休み明けからの実践の参考にできた。 ▲「中高教員交流」の実施時期や方法について十分検討して進めていく必要がある。実施時期については夏季休業日初日のため各校で調整が必要であり、方法については全体会や部会の議題や進め方をコーディネーター会や学校間で打ち合わせていくようにしたい。



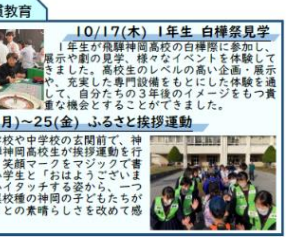
【Step by Step 面談】



【「先輩と語る会」の様子】



【小中高教員交流会】

	出前授業	○普段受けることのできない高校の授業を受けることで、進路意識を高めるとともに平常の授業の大切さにも気付くことができた。 ○高校生による「出前授業」では、昨年度までの租税教室に加え、山之村小中学校の卒業生が、山之村の文化祭で後輩や地域の方々の前でロボット部の活動の成果を発表した。その姿は、連携型中高一貫教育の目標そのものの姿であり、教員にも地域の人々にも大好評であった。	 【山之村での出前授業】
地域に愛着と誇りをもち、地域に貢献する態度の育成	生徒同士や地域との交流活動 (生徒会交流や部活動交流を含め)	○MS リーダーズやMSJ リーダーズを中心としたふるさと挨拶運動や交通安全運動では、PTA や警察と協力してコロナ禍以降減少していた対面による交流活動を再開し、実施する意義を見つめ直した上で異学年や異校種の生徒交流をすることができた。 ○地域ボランティア、つながりプロジェクトなど、今までになかった交流活動を通して、保護者や地域の方との協働による取り組みができた。その結果、地元イベントやボランティア活動に参加する児童生徒が増え、「地域に貢献できる子」の育成につながった。 ▲地域連携が進む中で、今後は総合的な学習の時間・総合的な探究の時間における交流を充実していきたい。各校のふるさと学習や探究学習のカリキュラムの共有や、活動の様子の参観をすることから始めていきたい。 ▲希望する部活動で日常的に中高合同の練習をすることを含め、地域クラブ活動の在り方を模索したい。	 【ふれあい挨拶運動】  【生徒会とPTA役員と語る会】
	職場体験学習 校内企業展 わくわくワーク	○職場体験やインターンシップ、校内企業展や「わくわくワーク」「ひだアカデミア」など、地域の人や産業から学ぶ体験学習を充実し、ふるさとへの理解を深めたことが、地域に愛着と誇りをもって主体的に学び、探究する姿を生み出すことにつながった。 ○社会人講話では、地元企業の方や専門家を講師として招き、高校在籍時や大学時代のエピソード、就職後に取り組んだことについて話を聞き、地元企業についての理解だけでなく、職業観や目標達成に向かう心構えや姿勢について学ぶことができた。 ▲本年度より3委員会から2委員会に変更したことに合わせて取組の見直しを進めてきたが、伝統的に行われてきた取組がそのまま踏襲され「行事ありき」になっているものもあるため、目的に応じて精選をしていきたい。	 【社会人講話】  【ひだアカデミアの様子】
	地域をつなぐ 情報発信	○同報無線や学校だより、ポスター、チラシの掲示・配付に加え、SNS の活用など様々な方法で中学校・高校と地域をつなぐ発信をしたことで、各イベントへの参加者が増えたり、生徒の活動や活躍について地域の方々に知ってもらったりすることができた。 ○各種取組の開催にあたり、各校の委員が情報共有しながら調整・連携し、関係者や団体への連絡や周知を大事にして学校の独自性を生かした活動を進めることができた。 ▲学校地域協働委員会の「協働」の捉えについて、教員や生徒は中学校と高校の交流だけでないことを認識しているが、保護者や地域にも説明しながら理解を深めたい。	 【学校だよりやSNSによる発信】